



けんすけタイムズ

Kensuke Times



民進

Minshin Press

今回のタイトル

通常国会折り返し

衆議院議員

愛知13区：安城・刈谷・碧南・知立・高浜



おおにし健介



1月20日に召集された150日間の通常国会は、折り返しを過ぎました。新年度となり、各委員会では、法案の活発な審議が行われています。例えば、私が委員を務める厚生労働委員会では、介護保険法改正案が審議され、民進党も対案を提出した上で、初めから反対ありきではなく、修正の可能性を探りながら丁寧な審議を行いました。しかしながら、テレビが森友問題しか伝えないので、国会は重要な課題そっちのけで森友問題にばかり時間を割いていると国民の目に映っていることは残念です。

私たちは、天下り問題やシリア・北朝鮮問題について、予算委員会の集中審議を求めています。与党は頑なに拒否しています。

一方で、被災地に最も寄り添うべき今村復興相の自主避難者に対する「自己責任」発言、山本地方創生相の「芸員はがん」という暴言、古屋選対委員長の沖縄蔑視発言、中川経産政務官の女性問題による辞任など「安倍一強」政治の驕りや緩みがいろんなところに顕れてきています。

にもかかわらず、安倍内閣の支持率が50%を超えているのはなぜなのか。それは、国民が安倍内閣を支持する理由に表れています。世論調査で最も多い36%の人々が「他に適当な人がいない」と答えているのです。

国民に選択肢がないと思われる政治状況を作ってしまったことを野党第1党として我々、民進党は猛省しなければならないと思っています。

1. 森友学園問題とは何か

政府与党は森友問題の火消しに躍起になっていますが、世論調査では75%の国民が「政府の説明には納得できない」と答えています。

この問題の核心は、国有財産がなぜ8億円も安く売却されたのか、そこに政治家、官僚の関与はなかったのかということですが、ここまで大きく取り上げられることとなったのは安倍政権の本質を表しているからだと思います。

第一に、森友問題では「他人の気持ちを推し量ること」を意味する「忖度（そんたく）」という言葉が問題になりました。異例の土地取引は、総理夫人肝いりの案件として財務省はじめとする官僚が官邸の意向を酌んで動いた疑いがあります。安倍一強政治の下で、与党議員も官僚もマスコミも官邸の意向ばかりを上目遣いで気にしている状況がこのような事件を生んだのではないのでしょうか。政治は、権力者の意向を忖度するのではなく、国民が政治に何を望んでいるのかを考えるべきです。

第二に、森友問題をマスコミが大きく取り上げる一つのきっかけとなったのは、森友学園が運営する幼稚園の運動会での異様な選手宣誓の画像がテレビに流れたことでした。ニューヨークタイムズ、ガーディアン、ルモンドなど世界の主要紙は、森友問題を総理夫妻が偏った右翼教育を行う学校法人に肩入れし便宜をはかった事件と報じています。日本会議をはじめとする安倍政権を支える右派人脈がこの問題の背景にあることは間違いありません。

2. 後半国会の焦点は共謀罪

後半国会の焦点は共謀罪になると思われます。国際組織犯罪防止条約の批准のための国内法である共謀罪は、過去3度国会に提出され廃案となっていますが、政府は、これまでの法律とは違うテロ等準備罪だと説明しています。

277に対象犯罪を絞り込んだとは言え、政府が説明するように、本当に、「組織的犯罪集団」のみが対象で、市民団体や労働組合等は対象とならないのでしょうか。政府は、一方で、一般の団体であっても「途中で性質が一変したと認められる場合は対象となり得る」と答弁しています。その判断は誰がどうやってするのが曖昧です。恣意的に運用されれば、自由や権利を侵害する恐れがあります。また、判断する材料として、捜査機関等が市民団体や労働組合を監視することにならないかとの懸念もあります。

我々もテロ防止のために必要な対策は行うべきと考えますが、テロ防止関連条約のうち未批准の5条約を置き去りにしてなぜ共謀罪を急ぐのか、現行法の不備を予備罪や準備罪を新設することで対応できないのか、277の対象犯罪が適切なのか等についても慎重に議論する必要があると思います。

しかし、シドコロモコロの答弁を繰り返す金田大臣で、こうした国民の疑問を払拭することができるのか極めて疑問です。

共謀罪に関しては、安倍政権が進めてきた特定秘密保護法、安保法制という流れの延長で見た時、また、戦後、国会で失効決議が行われた「教育勅語」容認の閣議決定、戦前、軍事教練で行われていた柔剣道の学習指導要領への追加、教科書検定での「パン屋」の「和菓子屋」への変更等を合わせて考えた時、そこに戦前回帰のような不気味さを感じずにはおれません。

3. 遠心力より求心力を

私は、一時期、細野・馬淵・長島の保守系グループ3派が民進党再生の中心を担うと信じて動いていただけに、長島さんの離党、そしてそれに続くタイミングでの細野さんの代表代行辞任は残念でなりません。

長島さんが記者会見で述べた『真の保守』とは何か。それは、わが国の歴史と伝統を貫く『寛容の精神』だと思います。ですから、『真の保守』は多様な意見を包摂することができるのです。」「保守の側も昨今劣化が激しく、籠池さんのように、教育勅語を信奉していれば保守だといわんばかりの粗雑なキャラクターが際立っています。私は、『真の保守』というのには、国際社会でも通用するような歴史観と人権感覚を持ち得なければならないと考えております。」という言葉に共感します。いまの自民党は長島さんの言う「真の保守」とは違うと思います。だからこそ、民進党にとどまっていたら良かったと思います。

現状は、国民が感じているように、残念ながら、自民党以外に選択肢がないというような状況です。しかし、「もう自民党に任せるわけにはいかない」と国民の怒りが爆発した時に、他に選択肢がない政治でよいのか。そして、冷静に見た場合に、いまある政党の中でその役割を担えるのは民進党しかないのです。

時間はかかるかもしれませんが、しかし、目先の支持率に右往左往せず、一致団結して、いまは耐える時です。内部でガタガタしているとの印象を与える先輩方の行動には、正直がっかりです。

自民党なら誰でも通るバブルの選挙で当選した自民党1・2期生の不祥事が相次ぐ中、厳しい選挙を勝ち抜いてきた民進党の若手は、予算委員会で堂々と論戦に挑んでいます。

国民の大きな期待を背負い政権交代を果たした選挙で初当選した我々には、民進党をもう一度政権を担える政党にする使命があると思っています。



「民主くん」と「ミンシシ」との引き継ぎ式にて

Profile  **衆議院議員 おおにし健介** 〒446-0058 愛知県安城市三河安城南町1-11-5
☎0566-70-7122 Fax0566-74-2008 Mail office@oniken-web.jp

▶昭和46年4月13日生まれ

▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員
馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議
院議員総選挙で初当選

▶「地盤・看板・鞆」なしで挑んだ平成21年
総選挙で初当選以来、連続3期当選

▶政調筆頭副会長、国対副委員長、青年局長、
予算委員会次席理事

▶3歳と7歳の2人の男の子のパパ。
ニックネームは「オニケン」